

技術経営と社会連携

Management of Technology & Social business



ナンバリングコード			
開設年度	2025	開設部局	理工学研究科
学科・プログラム等	(研究科共通)		
学期	前期	学年	1年 2年
曜日	土 集中	時限	集中
履修期	1期	授業形態	講義・演習
科目区分	選択必修	単位数	2単位
対面／遠隔	対面授業	授業回数	15回

■担当教員

研究科教務委員長/中武貞文(南九州・南西諸島域イノベーションセンター)

■共同担当教員

谷川徹(南九州・南西諸島域イノベーションセンター客員教授)

岩城通(南九州・南西諸島域イノベーションセンター客員教授)

藤枝繁(南九州・南西諸島域イノベーションセンター教授)

■授業概要

研究活動はイノベーションプロセスの一部である。研究活動で見出された発明・発見・技術を適切に取扱い、大局的な流れを理解することを本講義の目的とする。そして座学で、産学連携、オープンイノベーションやビジネスモデルのキーコンセプトや最新動向を学ぶ。次いで大学院にて自ら取り扱っている研究テーマを社会にいち早く届けるための事業計画「ビジネスプラン」をグループワークを通じてまとめる。そして最終的には、近年注目を集めているベンチャー/スタートアップのピッチ形式での最終発表を行う。研究からビジネスを産み出す疑似体験をしてほしい。

座学、グループワーク、プレゼンテーション(ビジネスピッチ)で授業を構成する。ビジネス経験豊かな客員教授の講義があることは、企業等での活躍を目指す理工系大学院生にとって有用と考える。

企業研究者、商品企画、技術マーケティング、コンサルティングといった領域を目指す大学院生はぜひ受講して欲しい。また、開講は理工学研究科であるが、他の研究科からの受講も可能である。

グループワークを実施する関係上、受講者数の上限を「30名」とする。(後述の履修条件を参照のこと)

【補足】

1. 自分自身の研究成果を基にベンチャー設立を目指し、公的競争的資金(JST)を獲得する大学院生も出現している。(令和6年度)

■学修目標

- ・技術経営のキーコンセプトを習得することができる
- ・イノベーションという概念や産学連携の課題とその可能性について知ることができる
- ・自らの研究テーマの事業化イメージを獲得することができる

■授業計画

全講義15回の授業の計画は次のとおりである。原則対面での授業を計画しているが、一部、Web講義となる可能性もある。テス

トは実施せず最終レポートを最終発表会後に設定する。

第1回:4月12日(土)2限

①ガイダンス 中武貞文

第2回:4月19日(土)2限

②大学卒業研究と大学院の研究概要の確認(グループワーク) 中武貞文

第3回:5月17日(土)1-2限

【アントレプレナーシップを学ぶ】③④オープンイノベーションと産学連携 谷川徹客員教授

第4回:5月24日(土)1-2限

⑤⑥研究テーマの事業化に向けたチームビルディング 中武貞文

第5回:6月14日(土)1-2限

【理工系人材の経営センスを磨く(1)】⑦財務諸表を読み解く⑧企業活動とコンプライアンス 岩城通客員教授

第6回:6月28日(土)1-2限

【理工系人材と経営センスを磨く(2)】⑨⑩原価計算と黒字倒産 岩城通客員教授

第7回:7月5日(土)1-2限

⑪⑫ビジネスモデル検討グループワーク 中武貞文

第8回(最終):7月26日(土)3-4-5限

⑬⑭⑮最終発表と全体共有・振り返り 全教員

⑯期末試験は行わない

【参考1】第1回から第7回まではMOTプログラム「知的財産戦略構築実務論」の受講が可能となる日時設定としている。

【参考2】客員教授に関する情報は以下のとおりである。

★谷川徹客員教授:日本政策投資銀行を2000年に退職後渡米し、スタンフォード大学客員研究金としてシリコンバレー他米国やアジアのイノベーションシステムを調査研究し、また同地のベンチャーコミュニティネットワークを形成した。2002年から九州大学の産学連携組織立ち上げの中心として関わり、2010年に我が国に初の本格的アントレプレナーシップ教育組織ロバート・ファン・アントレプレナーシップセンター(QREC)を立ち上げ、初代センター長に就任。2017年に九州大学を退職後、e.labを創業し、産学連携、アントレプレナーシップ教育、ベンチャー支援、地域創生の分野で活動中。鹿児島大学客員教授等兼職多数。

★岩城徹客員教授:鹿児島県出身、大学卒業後、外資系企業に入社し、アメリカ本社にて勤務、財務の専門家としてキャリアを積む。化学企業を経て、Dell、マイクロソフト日本法人の財務執行役員として活躍。2015年から客員教授としてMOT教育に参画している。

■授業方法

アクティブラーニング(グループワーク)

■準備学修に必要な学修時間の目安

本科目は、90時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は30時間分(2h×15コマ)となるため、60時間分相当の事前・事後学修(課題等含む)が、授業の理解を深めるために必要となる。

■教科書

テキストは使用しない。

■参考書

期間内に以下に掲げる参考図書等を読むこと、併せて日常から社会・産業動向を把握することを推奨する。

■参考書等

オープンイノベーション協議会(JOIC) & 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO). (2020). オープンイノベーション白書【第三版】. https://www.nedo.go.jp/library/open_innovation_hakusyo.html

ティム・ブラウン. (2014). デザイン思考が世界を変える 千葉敏生, 翻訳者. 早川書房.

清水洋. (2019). 野生化するイノベーション: 日本経済「失われた20年」を超える. 新潮社.

文部科学省. (2014). 「イノベーション対話ツールの開発」について. https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/1347910.html

■成績評価方法・評価基準

最終発表 50%(発表内容)、最終発表終了後のレポート20%、講義毎に設定する課題 20%、授業態度・姿勢10%

なお、情報収集、プログラミング、文章校正、翻訳、プレゼンテーションのための生成系AIの利用について認める。文章生成については認めない。

■オフィスアワー

■オフィスアワーは、各講義終了後30分とする。この他、事前にメール、Teamsチャットにて相談時間を教員と調整し実施する。

■場所：南九州・南西諸島域共創機構棟2階

最新の情報は、学修管理システムmanaba、理工学研究科の大学院掲示板及びMOT教育プログラムのホームページにて確認すること。

■連絡先(TEL)

099-285-8492

■連絡先(MAIL)

相談がある場合には、担当教員の中武貞文にメール(k0858223@kadai.jp)やteamsのチャット機能(k0858223)に連絡をすること

■担当教員への連絡方法

相談がある場合には、担当教員の中武貞文までメール(k0858223@kadai.jp)やteamsのチャット機能(k0858223)に連絡をすること

■履修条件

1. 技術を活用したビジネスを志向し、かつ授業外のビジネスプランコンテスト(後述;KSP等)へ応募を希望する者の参加を歓迎する。
2. 1. を踏まえ、受講者数が上限の30名を超えた場合には、講義終了後(2025年度後期;2026年1月31日(予定))に開催予定の鹿児島大学学生ピッチコンテスト「KADAI Starter's Pitch(KSP)」の参加希望者を優先する。履修登録申請時にKSP参加の意向表明や本講義を受講する理由について小レポートを課し、受講者を選考する可能性がある。
3. KSPほか授業外のビジネスプランコンテストに提案を行う希望者は、産学交流プラザ2階の交流スペース「TegeLab」の使用を認める。

■実務経験のある教員による実践的授業

南九州・南西諸島域イノベーションセンターは鹿児島大学の産学連携やベンチャー創出の実務を担当しており、その知見・経験を提供する。

参考サイト 南九州・南西諸島域イノベーションセンター <https://www.krcc.kagoshima-u.ac.jp>